

彼方小だより

児童数配布

富田林市立彼方小学校

令和4年9月号

「パワースポット」

校長 藤井 貞彦

長かった夏休みも終わり、いよいよ2学期が始まりました。

今年は3年ぶりに行動制限のない夏休みとなりました。しかし、コロナウィルス感染症第7波の勢いは衰えることを知らず、医療機関はまたまた大変な状況になっているようです。自主的に外出を減らしたり、遠出を避けたりされたご家庭も多かったのではないのでしょうか。私も友人と集まるのを断念して、今年も一人で出かけることにしました。

今年は琵琶湖のパワースポット“竹生島”に出かけました。彦根から船に乗って向かいます。前日に大雨が降り、湖面に大量の流木が浮いていたので、予定より少し時間はかかったものの無事に竹生島に到着しました。船を降りると、何とも言えない不思議な雰囲気にも包まれました。吹き抜ける風は涼しく真夏の暑さを忘れさせるほどでした。「竹生島」は千年以上も前から「神の住む島」と呼ばれ、人々の信仰を集めるパワースポットです。お寺と神社があり、国宝や重要文化財が多くみられます。両方を参拝したのですが、気分が高揚して「コロナ退散」・「世の中の平安」なんてガウにもなく大きなお願いをしました。

その後、島内を散策し、最後に有名な「かわらけ投げ」に挑戦しました。二枚のかわらけ（素焼きのお皿のようなもの）に自分の名前と願い事を書いて、岬の先端に立つ鳥居めがけて投げるのです。かわらけが鳥居の中を通れば願いがかなうと言われていました。

一投目、コースは良かったのですが途中で急降下して手前に落ちてしまいました。

二投目、少し高目を狙って慎重に投げました。「よっしゃ！ ええコースや！」「アカン、また急降下や・・・」「もうちょっとがんばれ！」次の瞬間、かわらけは鳥居の足のちょうど真ん中あたりに落ちてそのままバウンドして向こう側へ消えていきました。「これで、通ったって言えるんか？」すぐに神社の方に確かめました。「はい、バウンドしていても通り抜けていけば大丈夫ですよ。」と笑顔で教えてくれました。「よしよし、これで私の願いも叶うはず」清々しい気分で竹生島を後にしました。（何をお願いしたかって？ それは後ほど・・・）

さて、寺社やパワースポットと呼ばれるところに行くとなぜか心が落ち着くのは私だけでしょうか。私は毎月一回、学校や地域の安全を祈願しに行くのですが、同時に私自身の擦り減った心も癒やされています。願いが叶うかどうかは別にして、たまにはパワースポットを訪れてゆったりと自分のことを振り返り、心を整えるのもいいものだと思います。

ちなみに、始業式で元気な子どもたちに会えたのは、竹生島の神様が願いをかなえてくれたおかげ・・・いえいえ、そうではなく保護者の皆さんのおかげだと感謝しています。

2学期は気候も良く、学習に最も適した学期であると同時に、修学旅行・運動会等、多くの学校行事を予定しています。子どもたちの安心・安全を第一に考え、予定を変更することもあります。学習・行事ともに前向きに進めていきたいと考えています。子どもたちの健やかな成長のために、変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。